

## C I R（国際交流員）中間研修を開催 —2つの分科会のご紹介—

全国のC I R（国際交流員）が一堂に会し、C I Rの心得や、業務を遂行する際に必要となる高度な日本語の翻訳技術等について学ぶC I R中間研修が11月15日から17日にかけて、アパホテル&リゾート東京ベイ幕張（千葉市）で開催されました。その中から、ボランティア活動の分科会と、姉妹都市提携についての分科会を紹介します。（この2つの分科会の講師は採用2年目以降の現役C I Rです）。

### ①「ボランティア活動で国際交流」

はじめに、ボランティアにどのような意義があるのか、C I Rがどのように活躍できるのか、また、ボランティア活動の課題と解決法について参加者と議論が行われました。

ボランティア活動の意義とC I Rがどのように活躍できるかという点については、C I Rがボランティア活動に関わることで、新たなネットワークが構築でき、業務外でも幅広い国際交流活動が可能になります。C I Rは通訳ボランティアとしての活躍の場が多く、また、通訳以外のボランティアでも、職場や業務以外で日本人と接することで視野が広がる、日本のボランティアの実情を知る良い機会になり、日本でのC I Rとしての生活がより充実したものになります。

ボランティア活動を行う際の課題については、参加者から自分で主催する場合の資金・マンパワーの支援がどれだけ受けられるかという点が挙げられました。その解決については、資金も人手も、自分が行いたい活動と類似した活動を行っている団体に連絡し協力を仰ぐ、また、不要になっている物を知人から集めてフリーマーケットを開いて資金を調達する、という意見が出されました。自分だけで活動するのではなく、関心がある人達を巻き込み、手伝って貰いながら進めていくようにする、というアイデアも出しました。

### ②「姉妹提携活動」

C I Rの職務で、姉妹都市提携先との連絡調整が必要になる自治体も多いでしょう。姉妹都市提携についての講座では、姉妹都市提携の目標を説明し、C I Rが担う職務について、実践形式の講義が行われました。参加しているC I Rに問題点に気づかせるような工夫がなされており、活発な意見発表が行われました。

まず表敬訪問の段取りの組み方について、表敬訪問のスケジュールを見ながら確認すべき事項や気づいた点を自分で考え、発表していました。相手側が通訳を付けるかどうかでCIRが誰の通訳をするかという役割が変わること、記念品を交換する場合、どのような品物を選ぶべきか、相手国大使と自分の自治体の知事のプロフィールを事前に調べること、などが話し合われました。また、表敬訪問の際に必ず話題となりそうなテーマについても事前に専門用語を調べておけばスムーズに通訳できる、という工夫も紹介されました。

また、親書の書き方の説明があり、実際に訪問団が来日する場合のスケジュールについて、問題点や改善点を議論しました。日程の組み方についても、移動時間が非常に短い場合や、逆に訪問時間が長すぎる場合など、気づいた点をグループで発表していました。

なお、CIR中間研修については、全て日本語で行われました。参加したCIRの方については、普段は会えない全国のCIRとディスカッションをして刺激を受け、意見を出し合うことで勉強し、今後の業務で生かして頂ければ幸いです。



分科会「ボランティア活動で国際交流」